

製品名: RUNX2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe21351**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.3mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:57kD;Observed MW:57kD

抗原情報

遺伝子名	RUNX2
別名	RUNX2;AML3;CBFA1;OSF2;PEBP2A;Runt-related transcription factor 2;Acute myeloid leukemia 3 protein;Core-binding factor subunit alpha-1;CBF-alpha-1;Oncogene AML-3Osteoblast-specific transcription factor 2;OSF-2;Polyomavirus enhancer-binding protein 2 alpha A subunit;PEA2-alpha A;PEBP2-alpha A;SL3-3 enhancer factor 1 alpha A subunit;SL3/AKV core-binding factor alpha A subunit
遺伝子 ID	860
SwissProt ID	Q13950

免疫原

ヒト RUNX2 の組み換えタンパク質

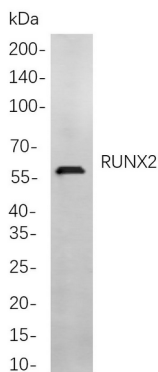
背景

細胞局在: 核。この遺伝子は RUNX 転写因子ファミリーの一員であり、Runt DNA 結合ドメインを持つ核タンパク質をコードしています。このタンパク質は骨芽細胞の分化と骨格形成に必須であり、骨格遺伝子発現に関する核酸および調節因子の足場として機能します。このタンパク質は単量体として、あるいはより親和性の高いヘテロ二量体複合体のサブユニットとして DNA に結合できます。コードされているタンパク質の N 末端領域には、トリヌクレオチド反復伸長の可能性のある領域が 2 つ存在し、これらの変異およびこの遺伝子の他の変異は、骨形成障害である鎖骨頭蓋骨異形成症 (CCD) と関連付けられています。異なるタンパク質アイソフォームをコードする転写バリエーションは、代替プロモーターの使用と代替スプライシングによって生じます。[RefSeq 提供、2016 年 7 月]

研究分野

-

画像データ



MDA-MB-231 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。RUNX2 ウサギ mAb を用いた。抗体の検出には HRP 標識ヤギ抗ウサギ IgG 抗体を用いた。